

令和4年度 河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川生態) 研究開発テーマ
 <一般研究:中間評価結果>

テーマおよび概要		研究代表者名	評価	審議結果
テーマ	気候変動下における河川生態系のレジリエンス-河川構造、生物多様性、生態系機能に着目して-	北海道大学 中村 太士	a	令和4年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	洪水攪乱前後並びに長期モニタリングデータを解析することにより、河川構造、生物多様性、生態系機能、個体群の安定性について検討し、気候変動モデルによる水温・流量予測から河川生態系のレジリエンスを評価する。			
テーマ	伝統的河川工法を用いた木津川の河床地形管理手法に関する研究	京都大学 竹門 康弘	b	令和4年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	木津川で市民参加により竹蛇籠・聖牛等の伝統的河川工法を製作設置し、河床地形や生物環境をモニタリング調査するとともに、既存の牛柁類について立地条件を分析し、河床地形管理に有効な伝統的河川工法を提案する。			
テーマ	流況変化に対する河川-海洋沿岸生態系の応答:狩野川水系における解明と生態系保全策	静岡大学 塚越 哲	b	令和4年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	年間降水量が2000mmを超える伊豆半島を集水域とする狩野川を対象に、大規模出水が河川中・下流域と河口、および河口沿岸の生態系に与える影響を中流に設けられた放水路の開閉との関連を併せて明らかにする。			
テーマ	大規模攪乱後の生態系回復プロセスとそれを担保する河川構造:2つの時間軸(平成29年7月九州北部豪雨と1720年6月享保水害)に着目したアプローチ	九州大学 鬼倉 徳雄	b	令和4年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	短期だけでなく長期的な経過時間を含めた生態系回復プロセスを、各種の生態的特性を加味しながら解明すること、また、激甚化した災害レベルでも生態系回復のソースとなりうる空間構造とその複雑性を流程ごとに特定する。			

評価の凡例

- a: 引き続き研究を推進する
- b: 指摘事項に留意のうえ、引き続き研究を推進する
- c: 指摘事項を踏まえ、引き続き研究を推進する
- d: 優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)